

してがの通信
 第 94 号
 羽津小 P・T・A
 編集発行
 発行所 羽津小学校

として保存して下さい

両親学級開かれる

テーマ：思いやりの心を育てる

目次	頁
両親学級開かれる	1
講演会に参加して	2
みどりの学校をふり返って	3
民話の世界 (シリーズ四)	4
過熱	5
P T A 研修旅行	6

11月18日(日)に両親学級が開催され、授業参観、5・6年生の合唱奏、講演が行われた。会場にはP T A 広報紙展、写真展、作品展、更に児童作品展もあり、多数の方が休日にもかかわらず参加いただきました。講演は員弁町教育長、金津先生より「思いやりの心を育てる」という演題でしたが、要旨をまとめました。

「人間は人と人との関係において人間になるから、人間評価の尺度を点数ではかつてはいけない。一人一人の良さ、美しさを発見して励ましていくのが教育ではないか。それを発見するのが良い親であり、教師である。その時に大切なのは思いやりの心ではないか。思いやりの原則は①相手の立場に立って考える。②一緒に悩む、子供と共に行動する。③理性的になる。ときにはきびしさも必要である。

思いやりの心をどう育てたらよいか。①温かくしみとおる言葉を泥かぶらの少女は老人の言葉

を守って仏の子のように美しい子よと言われるようになるが、子供の心に温かくひびくような言葉かけが大切である。②野趣豊かな生活を——年少の子供は年上の子供から野性味豊かな活動性を学んでくる。③さりげない心を。④許す心を。⑤感動する心を。⑥畏敬する心を——思いやりとは絶対的なものに対する敬けん心が必要である。

教育とは心温かい人間性豊かな子供を育てることではないか。どういう態度で接しどのような家庭を作ったらよいか。見えない家庭家風の中で子供は育ってくる。父親は雄々しくやさしく自信を、母親はおもいやりふくよかふりロマンを持つ。幼児期に基本的生活習慣をつけ、親子の中でおもいやりの言葉をかけることである。おもいやりとはおまえさんのためにもくもくといきるやさしく理をつくしてと想われる。

講演会に参加して

師・親・子の二人三脚で

緑丘 原田 信人

両親参観日には毎年学校側とPTA役員の方々のご努力により立派な講師をお迎えし話しを聞く機会を得る事が、我々の一番うれしい時間です。如何に講師の話しを理解し子供の教育のかたとをなればと思っております。

金津先生は教育者として四十年の経験があり今もまだ現役で活躍されておられます。

これから二十一世紀に向けて育つ子供がこのまゝでよいのか、将来は大丈夫か、大変心配な世の中になる前に今こそお互い思いやりと温い心と親子の話し合いを必要とし、教育者と家庭と二人三脚でこのむずかしい時期を乗り越える事が大切と師は考えておられます。師は教育者として最後の時に荒らぶる現代の生徒に直面しこの子

に正しい判断で指導された事、一般家庭でも、思いやりは少なく強制的に子供をしかる家庭が多く思っています。

やはり子供と思いやりを保ちつつ行動すれば、よい結果が得られると考えます。うれしい時、かなしい時にも冷静に物事に当られ正しい判断で乗り越えられた師。

自らの努力で子供達の心あたれたる祝福で転校した気持ち。

人に対するやさしさ、正しい取り組み方に正しい評価で当り、あやふやなただ答えればよいという事に対してはきびしい管理者としての役目も果たされた師。

この様な師の思いやりのある心の講演内容を聞き人生半ばの私達親として家庭に対するおやじ、おふくろの立場で少しでも今の生き方が正しいと思わず、少しでもこの話しより軌道修正が出来羽津小学校の生徒はどこか一味違う子供に育てたく皆様と一緒に努力したく思っています。

周囲から学ぶ私の人生

大宮西 奥山 順子

私は人の話を聞くのが大好きです。人はそれぞれ考え方が違うから自分では知らなかったり、分らなかったり、思いもつかなかったりすることがたくさんあります。そんなときいろいろを試みや対処の方法や違う考えなどを聞くとても嬉しくなる。それがその方の長い人生の体験に基づいたものなら、なおさらのことです。

お話をずっしりとした重みと感動が感じられ、日頃はB型人間で三枚目の私の目にも涙が滲んできました。一生の中で会えた人すべてから何かを学ぶことができると信じています。電車の中ですごいセンスの良い女性からは素直に感嘆すると同時に、そのハイセンスを学ぶことができるし、ひどい酔客からはお酒のたしなみもほどほどにしないと人に迷惑をかけるかから気をつけようと思えるし、マナーの悪い母親を見かけると、私も注意しなくてはと心に感じます。私の持論も、「本当の頭の良さはテストの点数と関係ない」です。社会に人間にいかに関係でき、協調できて人生を生きていけるか！

守ろう！

「校区外への外出について」

- (1) 親（保護者）の許可があること。
- (2) 外出する用件が明確であること。
- (3) 五年生以上であること。
- (4) 自転車に乗って行かないこと。
- (5) 名札を胸につけ、ハンカチはなをかみを持つこと。

学年学級部

講演会を開いて

部長 広瀬達士

秋晴れのよい天気恵まれた十一月十八日、授業参観のあと、講演会があり、員弁町教育長の金津先生の「思いやりの心を育てる」と題して一時間半に及ぶ講演を拝聴しました。

話しの内容はともわかりやすく素直な気持ちで心の中に入ってきました。子供を教育する事のむずかしさ、時にはきびしく時にはやさしく、体験をまじえてのお話しは目頭が熱くなってきました。子供を育てると言うことは、すべてに真剣に取り組む姿勢が、その子供にも伝わっていくものだと思います。家庭でのよい躾と学校での先生に対する尊敬の心を子供におしえ、思いやりのある子供に育つことをお祈りし、多数の御出席を感謝いたしますと共に、残り少なくなりましたPTA行事にも、すすんで参加していただくことをお願い申し上げます。

みどりの学校をふり返って

学校長 佐藤 稔

みどりの学校は健康増進特別事業として10年位前より実施されているが、本年度より自然教室推進事業として行われている。即ち、大気汚染地域の小学校20校の6年生を対象に緑の多い、空気の清浄な自然環境に児童を移動させ、教育課程に基づいて教育活動を行い、子供に大自然からくる心の栄養を

与えることにある。

本校では10月23日～25日まで1、2組、25～27日まで、3、4組が水沢の野外活動センターで移動教室を実施した。第1日目はバスで水沢の三本松で降り、野外センターに到着、早速、弁当・水筒を持って東海自然歩道を通って水沢小学校近くの足見田神社まで約7kmのハイキング。入所式では所員の出迎えをうけ、館内使用上の注意を聞く。終って子供たちは自分の部屋を確認して避難訓練の実施、レク班はキャンプファイヤーの準備にかかる。夕食は食事係の配膳による洋食ランチ。7時頃よりキャンプファイヤー、子供たちが一番楽しみにしている行事である。代表による営火入場、学級のたいまつに点火、続いて誓いの言葉、営火長の点火の合図で中央のたきぎに営火が移り、営火の意義、友情団結の大切なることを聞き、続いて各班より苦心のたしもの、わずか2時間足らずでしたが、時間を忘れたの楽しいひとときでした。



おいしい空気をいっぱい吸って

それがうまくできる人こそ、真に頭のよい人なのではないか。

私は子供の声を三ヶ月の頃よりカセットに録音しています。子供に聞かせるよすこくれています。が、ひどく喜びます。育児日記も長い間つけていましたし、アルバムもかなり凝っていて楽しいものです。私はこれらいろいろを人に見せたり、聞かせたり、お話ししたりして皆さんの参考にさせてもらっています。これは人に教えられたからです。良いことはどんどん広めていかなければと思うからです。今日の講演も録音しましたので、今日のお話を聞いてない友達にも、また貸してあげようと思っています。

翌日は係より鈴鹿山脈の地質の歴史の説明があり、自然観察路を通って地質の観察、陰性植物と陽性植物のちがいが、展望広場では双眼鏡を使って地形の観察、午後は木の葉の特徴スケッチ、夜は星座などの映画鑑賞、続いて秋の星座の観察、幸い好天に恵まれ、頭上高く正方形のベガサス座、旗竿のように見えるアンドロメダ座、W形のカシオペア座、西の空には夏の大三角、東の空には双眼鏡で宝石を散りばめたように見えるスピル星などを子供たちにとって宇宙の神秘さ、崇高さを味わったひとときだったと思う。幸い、大きな事故もなく、宿泊活動を通して自然とのふれ合い、教師と子供、子供同士のふれ合い、ふだん学校で学習できないことを体を通して学習したことなど楽しい有意義な3日間であったと確信している。



・大宮北子 供会では町内の空かんひろいをしました。

・スポーツ少年団剣道部では、日曜日の練習のあと、校舎周辺のゴミひろいをやっております。ホットな話があったら知らせてネ。

民話の世界

教頭 池田 昭

◇敵しさ残酷さの中にも 怪の怪のとしたあたたかさをもつ民話

民話の怪とんだが道徳を含む話である。人間社会に暮らす者としてどう生きたいか基本的なモラルを教えるものであった。だから、悪人は終始悪人として登場し、最後は残酷に処せられるのである。そして話を聞いた子供らは、嫌をつくなく、いじめをするな、人まねをするなと教えられたのである。しかも、民話の中には、ブヨのように小さい者を女房にする話から、空を飛び海に潜る話、浦島太郎のように空想科学小説であったり、和尚さんをやりこめる小僧さん、おならで梨をみな落とす「屁こき嫁」など、弱い者、力のない者が生きていくのを力づけてくれるものも多い。

民話の中を流れるのは、人間を人間として導び、怪の怪のとしたあたたかさをもつ明るい思想であるといえよう。

第一回
民話教室開かれる
伝えたい
ふるさとのこころ
城山 加藤 純子

「民話のこころをさぐる」というテーマに基づいて、教頭先生より数々の民話についてのお話を聞かせて頂き、怪の怪のとした暖かいものを感じました。今の私達は、あまりにも文化的な環境の中にあるので、身のまわりにある小さな変化や、素材を喜びももうっかり見過ごしている様子がします。子供の成長に伴い、家族が揃う時間も少なくなってきましたので、一家団らんを、より大切にしたい。テレビやラジオに耳を傾けたい。テレビやラジオに耳を傾けたい。テレビやラジオに耳を傾けたい。



しかし、民話での結末の語り方は非常にあっさりしていて、食い殺される場合もグロテスクな生々しい描写はない。まるで折紙の人形でも死んだかのように一滴の血も流れないで終わっている。

過

熱



59.11.20
朝日新聞より

ロス・オリンピックが終わって水泳選手の大騒動が報じられ、体育選手指導に関するさまざまな発言が各方面からあったことは、皆さんもご存知かと思えます。

「過熱」と題して掲載された次の一文は小学生をもつ私たち保護者に対する一つの警告とも思われまじ、今、立ち止まって、親として考えなければならぬことだと痛感するものです。

◎よく、少年野球やチビッ子サッカーなど地域スポーツ活動の指導者講習会に招かれる体育心理学専門の近藤氏は、

「子どもの指導はまず、スポーツを好きにさせることが大切。そのためには自主性を重んじ、目先の勝ち負けにこだわらないで伸び伸びと育ててほしいと要望すると、決まって会場の雰囲気はしらけ、時には強い反発を受けることもある。自分たちは勝つために指導している。父母にもそう期待されているんだというのです」と語る。

◎かっつてのフジヤマのトビウオ古橋広之進氏は、
「一流コーチの下でも、泳ぐとはどういうことなのか、なんのためにスポーツをやるのか、といった哲学が全くない選手がいた」と嘆いている。さらに、
◎日本体協委員の林克也氏は、
「その危険性は年々強まっていくだろう。一昨年春、秋田市教委が暗くなるまで練習を続けるスポーツ少年団の過熱ぶりにブレイキをかけるため、夜間の学校施設使用を禁止した。過熱の背景には、小学生の全国大会を開催するようになったことが原因の一つに挙げられている。心身ともに未熟な子どもたちが練習、練習で追い立てられる姿は正常ではない。スポーツをやらせる場合、小学生期の競技専門化は好ましくないと日体協の競技力向上委員会は結論を出している」というのだが、
◎それでも「父母は、スポーツを通じて心身を鍛えるとの美名の下に、指導内容を深く吟味せず、幼

い子供のしりをたたく。こうした傾向も不祥事につながってゆくとみる識者は少なくない」と、記事は結んでいるのです。
基礎学力の保障を学校側に要望する父母が、基本的な態をつけることと、成長に合った子供の身体管理保護に責任をもつことについて考えてみたい。こう思っている記事を紹介します。(一会員)

冬休みを前にして

養護教諭 三浦 兼子

冬休みは、子どもたちにとってクリスマス・大晦日・お正月と楽しい行事があります。その反面夜ふかしをしたりして不規則な生活になりがちです。
次の点に注意して、健康に過ごしましょう。

- ① 規則正しい生活を：私たちがの体は、自然の変化に対して24時間のリズムを作って活動しています。徹夜などした場合、疲労が十分回復するには一週間もかかると言われていいますので、体の中のリズムをそとをわなないように生活を心がけましょう。
- ② 睡眠を十分に：睡眠には浅

いねむりと深いねむりがあり、一晩に数回これをくり返しているといわれています。浅いねむりは、主に体の発育をよくし、深いねむりは、昼間の学習を脳に記憶する働きをしているようです。「寝る子は育つ」という諺は、こんなところからきたようです。
③ 食生活に気をつける：おモチ一切は、ご飯一杯分に当たりますので気をつけたい食べ物です。さらに、栄養のバランスを考えて、豆類・野菜・果物も食べるようにしましょう。コーヒー・紅茶はほどほどに。
④ 衣服の着方を工夫する：厚着をすれば暖かいとは限りません。時と場所に応じて調整し、できるだけ薄着で過ごしましょう。最近、子ども達の中で下着を着ない子を見かけますが、冬でも汗は出ますので、汗を吸いやすい綿の下着を着て、毎日とりかえましょう。かせの予防にもつながります。- ⑤ 交通安全に気をつける：休み中は、気がゆるみややすいので、けがや交通事故には十分気を付けてみましょう。



福祉保健部

PTA研修旅行
紅葉を訪ねて

別名二 坂江伊都子

秋の湖東路、三才の娘を連れ、研修旅行に始めて参加させて頂き永源寺と湖東三山を尋ね、久しぶりののんびり旅行気分を味わって来ました。

御在所のスカイラインを通るのも始めて、美しい風景を楽しみました。どのお寺も山の中に建立してあるので階段が多く、特に金剛輪寺には杖がおいてある程の長い階段でした。西明寺は、名神ハイウエーをまたいで参道があるのに驚きました。

紅葉の中、国宝の仏像や庭園をゆっくり眺めながら秋の一日を楽しみました。平日だったので人もあまり多くなく静かな雰囲気とても良かったです。

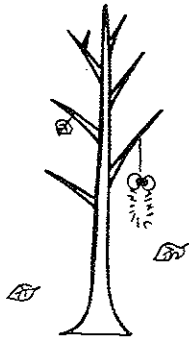
お寺を見るのが好きで昔はよく京都まで出かけましたが、子供がいる今は、なかなかそんな機会がありません。子供との明け暮れで過ぎる日々に、ゆっくり仏像を眺める事により、心の充電が出来たようで私にとってはとても良い一日でした。

来年も又、こんな企画がありましたら、ぜひ参加させて頂きたいと思っております。

広報紙展に寄せて

広報副部長 細谷 京子

両親学級の際、体育館に「しでの」に使った写真、又紙面の都合で掲載できなかった写真、広報紙ができるまでの紹介等、展示しました。ご覧いただけましたでしょうか。学校とPTAのパイプ役として、学校行事や、各専門部の活動等を主軸として、年間五、六回発行致しております。「ペンを持つこと幾久しく………」という生活の中で、辞書引きから始まり、割りつけ、校正など、何回かエックしてもミスがあったり身もほそる思いです。苦勞の一端を今回展示させて頂きました。その割には、スリムになったとは聞きませんが……。



PTA大会

開かれる

十二月一日、文化会館に於いてPTA大会が開催され、その席上市長よりPTA活動に貢献された方々に感謝状の贈呈があり、本校から次の両氏が表彰されました。

PTA副会長 岩田 和夫

藤井久美子

表彰を受けて

PTA副会長 岩田 和夫

藤井久美子

十二月一日、四日市文化会館に於いて、四日市市よりPTA活動に功績のあった方々の表彰が行われ、その中に私共二名も表彰を受けさせて頂きました。

今までのPTA活動に何の貢献もなく大変お恥しいことと思えますが、これもひとえに皆様のお力添えがあったからこそと心から感謝致しております。ありがとうございます。

PTA大会に
参加して

六年学年代表 伊藤 幸子

市Pの大会には過去二回参加しましたが、本大会は前回に比べ一段と活発で、四日市のPTA活動の水準の高さがうかがえました。特に私にとって興味深かったのは父母と教師との間で行われた、パネルディスカッションでした。

テーマは「PTA活動を活性化するための父母と教師のあり方」と題して双方で卒直な意見の交換がありました。本大会に参加して感じました事は、どこの学校でも問題になっている事は共通しており、それを解決する為には、父母と教師の間で子供の教育に対し、本音で語り合う事が必要である事、その為にも学級活動を活発にして魅力あるものにしていかねければと思いました。

デスクサイド

しでの第九十四号をお届けします。原稿をお寄せ下さいました皆様にお礼を申し上げます。

今年も余すところ数日、どうぞ良いお年をお迎え下さい。